

工業部会視察研修

日本原燃株式会社（青森県）原子燃料サイクル施設の視察見学について

この度、洲本商工会議所工業部会では、原子力発電環境整備機構の「地層処分事業の理解に向けた選択型学習支援事業」の支援を受けて、高レベル放射性廃棄物の地層処分についての理解を深めるため、日本原燃株式会社（青森県）への視察研修を行いました。

資源小国である日本では、エネルギーの長期的な安定確保に努めています。その一つが、原子力発電所の使用済燃料に含まれるウランや新たに生成されたプルトニウムを再処理し、繰り返し使う「原子燃料サイクル」で、ここ日本原燃株式会社では、ウラン濃縮工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、使用済燃料受入貯蔵施設はすでに操業し、再処理施設と MOX 燃料工場の建設を進めていました。

高レベル放射性廃棄物の地層処分とは、使用済燃料の再処理の際に残る廃液をガラスに融かし合わせて固めたもの（ガラス固化体）を地下深くの安定した地盤に閉じ込め、人間の生活環境から隔離する処分方法です。日本原燃の施設では、30～50 年間の冷却保管しながら中間貯蔵が行われていました。

今回の視察を経て感じたのは、ウラン濃縮や再処理を実施できる国は核保有国を除けば日本のみとなり、日本企業の技術の高さや日本の世界的な信用の高さに改めて感銘を受けました。また、新規基準への適合に向けた安全性の向上に取り組んでおり、放射性廃棄物などの安全な保管、そして原子力の利用への理解を深めることができました。

最後になりましたが、今回の視察を受け入れて下さった日本原燃関係者の皆様、（一財）日本原子力文化財団には、この場をお借りして感謝申し上げます。

